

『めあての大切さ』

長万部中学校 教頭 福井 博志

「めあて」という言葉は、よく耳にします。辞書で調べたところ、

- ① 目標とするもの 目印
- ② 心の中で目指しているもの 行動のねらい
- ③ 物事を行う場合などの基準

と、書いてあります。

先日、小学校の授業参観に参加させていただきました。教室に入ると、黒板に「今日のめあて」と書いてありました。低学年の教室では(め)というカードが貼ってありました。

これは、子どもたちに授業の中で「めあて」を意識させるために、言葉だけでなく視覚的にも訴えています。これは子どもたちの学習効果をあげるために、先生方が意図的に行っています。

「めあて」を持つこと・持たせること、意識すること・意識させることは学習面だけでなく、生活面においても大切なのは皆さんもご存じのことと思います。

私の先輩の話で恐縮ですが、ある部活動の顧問をしていました。その先輩は新入生が入った4月のスタート時に、「全道優勝」というめあてを筆で書き、自分の仕事部屋と職員室のデスクマットに貼っていました。

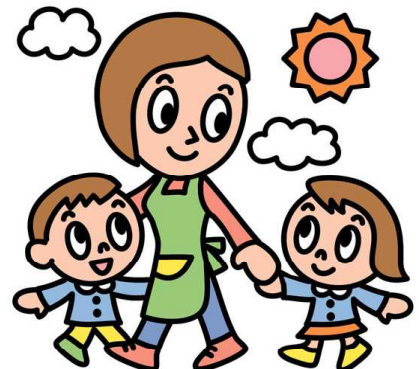
毎日の練習だけでなく、へとへとで疲れた時に、自分の書いた漢字四文字をみて、口に出し、自分に言い聞かせて練習に出ていった姿が印象に残っています。その先輩は、その言葉通りに結果を残し、全道大会で優勝し、全国大会へと駒を進めました。

めあてを持つことは、頑張るパワーにもつながっていくと思います。小さな区切りで、一時間、一日のめあてでも良いでしょう。もう少し長くして一週間でも良いでしょう。

大きな視点で言えば、人生のめあてでも良いでしょう。

自分自身の生活にめあてを持つこと。親として我が子にめあてを持たせること、意識させること。今一度、ご家庭で「めあて」について話題にいただければと思います。

毎月 第一・第三月曜日はノーゲームデー



子供社会にもあった暗黙のルール

長万部町教育委員会教育長 鈴木 祐 司

道の駅をはじめ観光スポットには、フリーペーパーと言われる無料冊子が置いてあります。立派な装丁に、本当に無料でいいのかなと思うこともありますが、広告料等で採算が合うのでしょうか、クーポンが付いている冊子もあり利用しています。

数年前に函館市郊外にオープンした大型書店も、peepsというフリーペーパーを毎月発行し、時々手に入れては見ています。このフリーペーパーは、函館・道南圏で暮らす人々にスポットを当て、より地元を好きになれるような切り口で編集されており、長万部町の温泉やお店も掲載されていたことがありました。3月号は、「函館の仕事・道具」という特集で、函館に古くからあるお店や工場、そして職人の方が掲載されていました。何気なく見ていると、「あれっ、どこかで・・・」と思

peeps hakodate
函館の新しい暮らし
あつたなつた
ピープス March vol.28



った写真がありました。それは、私が13歳まで過ごした地域の印刷所の写真であり、印刷機や活字版などをバックに一人の初老の職人さんが写ってました。その方は、まだ幼かった私をとててもかわいがってくれ、面倒を見てくれたAさんでした。当時は、地域に異年齢集団（年齢が異なる縦割りの遊びグループ）があり、同じ年齢の学級・学年の子供たちより、地域の子供たち同士で、缶蹴り鬼・乗り馬・蹴り馬・ビー玉・コマ回しなど一緒に遊びました。しかし、低学年の子は「みそっかす」となり鬼ごっこしても大目に見られ鬼にはならなかったり、コマ回しでも狙われることはありませんでした。私の「みそっかす」時代に出会ったのが、写真のAさんであり、あこがれのお兄さんでした。その理由は、スポーツが万能で運動会などで大活躍していたこと、器用でいろいろな遊び道具を作ってくれたこと、そしてなんと言っても優しかったことです。毎日のように遊びに行くものですから、我が家では「Aさんの家にもらわれていたら」「Aさんの弟になれば」と言われていました。今では考えられない遊びですが、鎌を持って背丈の高い草を切ったり、2B弾というマッチ箱のヤスリ部分に擦って着火させ破裂させる花火で遊びました。いささか危なっかしい遊びでも、年長者がそれなりに教えてくれたり、見守ってくれたのではないかと思います。夏には学校から出された宿題「夏休み帳」を教えてもらったり、冬には大きなかまくらを作り、夜に集合して餅やスルメを焼いたりしました。私は4人兄弟、Aさんは6人兄弟、子供たちが多いう時代、テレビも普及していない時代です。

先月「長万部町いじめ防止条例」についてお伝えしましたが、昭和の子供社会の中には自浄力（外部の力を利用せず、自分の力で清くなること）があり、小さい子や弱い子をいじめてはいけないという絶対的なルールがあり、それは子供たちなりに受け継がれていたのではないかと思います。今、改めて条例として、大人の目配り・心配りをお願いしなければならなくなってきました。町で遊んでいたたり、通学や買い物で出会う子供たちの様子で気になることがありましたら、学校や教育委員会に連絡をいただければと思います。